



TITLE:

享保年間ノ米價調節(一)

AUTHOR(S):

本庄, 榮治郎

CITATION:

本庄, 榮治郎. 享保年間ノ米價調節(一). 經濟論叢 1915, 1(3): 423-439

ISSUE DATE:

1915

URL:

<https://doi.org/10.14989/126895>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第

卷一第

論說

●染料藥品生產獎勵制度

●經濟學認識論ノ若干問題(一)

●營業利益課稅新案

●貧富問題(三)

雜錄

●官業整理ト財政

●南洋新占領地研究ノ一やっふ島研究

●享保年間ノ米價調節(一)

●收益遞減ノ法則ノ擴張

雜報

●獨逸ノ戰時經濟組織

●獨逸經濟ノ軍國主義化

●佛蘭西ノ農産擔保貸付法

●近時米國ニ於ケル婦人ノ職業ノ變遷

●獨身者ノ組合運動

●收穫ノ増減ト價格ノ變動

●すまゝと教授逝ク

法學博士 戸田 海市

商學博士 左右田喜一郎

法學博士 神戶 正雄

法學博士 田島 錦治

法學博士 小川 郷太郎

助教授 山本美越乃

法學士 本庄榮治郎

法學博士 河上 肇

法學博士 神戶 正雄

法學博士 小川 郷太郎

助教授 河田 嗣郎

法學博士 河上 肇

法學博士 神戶 正雄

講師 高田 保馬

法學博士 河上 肇

享保年間ノ米價調節(二)

法學士 本庄 榮治 郎

總論——享保十五年ノ引上策——同十七八年ノ引下策——同二十一年ノ引上策——結言

總論

凡ソ米價ノ變動ハ社會ノ各階級ニ對シテ如何ナル影響ヲ與フヘキカトイフニ、先ツ米ノ消費者

雜錄 享保年間ノ米價調節(一)

第一卷 (第三號 一一一) 四二三

ニ對シテハ之レカ爲メニ他ノ方面ニ向クヘキ購買力ニ變動ヲ生セシムルモノナルカ、更ニ他方ニ於テ米ノ生産者タル農民ト雖、ソノ年貢及ヒ夫食以外ノ米ハ之ヲ賣拂ヒテ他ノ所要品ヲ買フヘキ地位ニアル以上ハ到底米價變動ノ影響圈外ニ立ツコトヲ得ス。コレ等ノ事相ハ程度ノ差コソアレ現代ニ於テモ見ル所ノモノナルガ、徳川時代ニアリテハ尙他ノ一階級アリテ最モ痛切ニ米價變動ノ影響ヲ蒙ラサルヲ得サリキ。武士階級即チ是レ也。即チ當時ニアリテハ米ハ單ニ國民必需ノ食料品タリシノミナラス、幕府及ヒ諸藩ノ財政經濟上ノ根本ヲ成シ、武士ノ俸祿ハ主トシテ米穀ニヨリ、租税ノ收納モ亦之ヲ以テセリ。サレハ幕府始メ諸藩武士ハソノ收得セル米ヲ賣リテ他ノ日用品ヲ買フヘキ地位ニ立チ、コノ點ニ於テ農民トソノ利害ヲ共ニセシモノナルガ、ソノ影響ヲ受クヘキ程度ニ至リテハ武士階級ハ遙カニ農民ヨリモ大ナリト信セサルヲ得ス。蓋當時ノ農民ニアリテハ尙頗ル自足經濟ノ域ヲ脱セス、ソノ日用品ノ購求ノ如キモ未タ盛ナラサリシト雖、諸藩武士ニアリテハソノ收納セル米ハ大部分之ヲ市場ニ提供シテ金錢ニ代フルノ必要アリシヲ以テ也。

以上ノ如ク米價ノ變動ハ士農階級ト商工階級トノ間ニ相反セル影響ヲ及ホスモノナルカ、コハ米價變動ノ第一次的影響ニ過キス。更ニ第二次的影響トシテ米價ノ高低ニ伴フ士農階級ノ購買力ノ増減カ商工階級ニ對シテ如何ナル影響ヲ生スヘキモノナルカヲ究ムル所ナカル可ラス。思フニ商工階級ノ利トスル所ハ即チ其日々購買スル所ノ米價ノ低廉ニシテソノ製造販賣スル所ノ日用品ノ相當ニ高價ヲ維持センコト是レ也。然ルニ此工業製造品ノ顧客タルヘキモノハ士農階級ニ屬スル者ニ多キカ故ニ、士農兩階級者カ米價暴落シテソノ收益スル所少ク、爲メニソノ購買力ヲ減小セル場合ニハ、商工階級者ハ一方ニ於テ米價ノ低廉ナルコトニヨリテ利スル所アルヘシト雖、他

方ニハソノ製造品ノ販賣ニ就テ所期ノ利益ヲ擧クルコトヲ得ス彼此相比照スルトキハ米價ノ暴落ハ却テ商工階級者ニモ不利ナル影響ヲ與フルコトナキニ非ル也。サレハ商工階級ハ必ニシモ米價ノ相當ニ高キコトヲ憂フルモノニ非ストイフヲ得可シ。

(註) 米價變動ノ第一次的及ビ第二次的影響ニ就テハ既ニ太宰春台モ經濟錄ニ於テ之ヲ論ジタリ(日本經濟叢書卷六、一一八頁以下參照)

之ヲ要スルニ米價ノ高低ハ直接ニ士農階級ノ購買力ヲ増減シ、コノ購買力ノ増減ハ更ニ此等階級者ヲ相手トセル商工階級ニモ甚大ナル影響ヲ及ボスモノトス。既ニ述ヘタルカ如ク第一次的影響ノ中ニ於テモ農民ヨリモ武士階級ノ蒙ル影響大ナルノミナラス、更ニ第二次的影響ニ於テ商工民カソノ影響ヲ蒙ル以上ハ田舎地方ヨリハ城下町殊ニ當時ノ大中市カ米價ノ高低ニヨリテ大ナル影響ヲ受クヘキコトハモトヨリ明カナル所トス。

古來我國ハ農ヲ以テ國ヲ立テ、特ニ徳川時代ニアリテハソノ經濟ハ鎖國孤立的ノ狀態ニアリシカ故ニ依然農ヲ以テ國本トスルノ外ナク、一般ニ農本思想盛ニ行ハレ農民撫育ノ聲高カリシガ、當時恰モ武士階級ハ農民ト同シク米ノ供給者タル地位ニ立チ、コレト利害關係ヲ共ニシタルニ加ヘテ爲政者タルノ地位ヲ占メシカハ、彼等ハソノ有スル所ノ權力ニヨリテ士農兩階級ノ利益保護ヲ實現センコトヲ期シタリ。然ルニ徳川中世以後、商人階級ハ既ニ國內ノ金權ヲ掌握シ、諸侯多クハ之ニ資給ヲ仰キ纔ニソノ國用ヲ辨スルノ狀ナリシヲ以テ、彼等ハ武士階級ニ對シテ隱然一大勢力ヲ成セリ。而モ徳川幕府施政ノ大方針ハ古例ヲ重シシ舊慣ヲ貴ヒ、社會ノ各階級ヲシテ不變ノ狀態ニ固定セシメ上級下級ノ區別ヲ嚴守シ上進下落ノ途ヲ防ギ、各階級ノ利害ヲ調和シ以テ階

級制度ノ動搖ヲ阻止セントスルニ在リシヲ以テ、幕府武士ハ自己ノ利益ノ爲メニ米價ノ高カラシムコトヲ欲スト雖、之レカ爲メニ殊更ニ商工ノ利益ヲ無視シシノ不平ヲ勃發シ遂ニ武士階級ニ對スル反抗トナリ階級制度破壞ノ念ヲ萌サンコトヲ欲セス、況ヤ商工業繁榮シテ其購買力大ナルニ非スンハ、米價ヲ維持スルコト難キカ故ニ、商工業ノ衰微ヲ來タスカ如キ過度ニ米價ヲ引上グルコトハ、米ノ供給者トシテノ立場ヨリ考フルモ永遠ノ策ニ非ルオヤ。爰ヲ以テ幕府ハ更ニ商工階級ノ利益ヲ考慮シ士農階級トノ利害關係ヲ適當ニ調和セサルヲ得サルニ至レリ。然ルニ他ノ一方ニ於テハ前述ノ如ク米價ノ高低ニ基ク士農階級ノ購買力ノ増減ニヨリテ商工階級ハ必スシモ米價ノ相當ニ高キコトヲ憂ヘサリシ爲メ、幕府ハ或ハ米價ノ上騰ヲ策シ或ハソノ下落ヲ計リシト雖ソノ主力ハ寧ロ米價引上ノ方面ニ注カレタルコトハ見易キ所也。

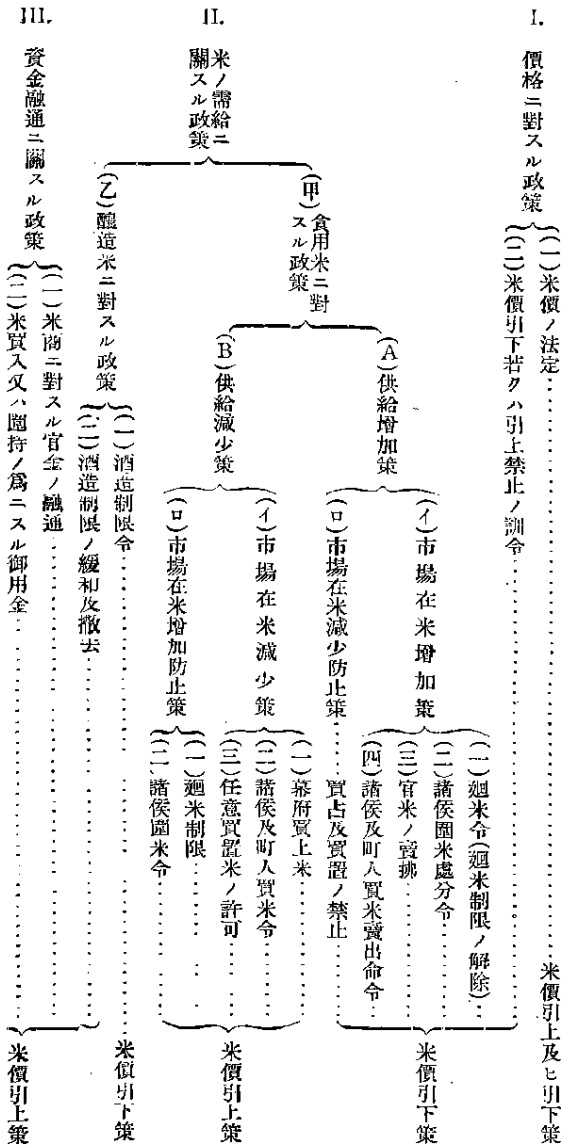
(註) 論者或ハ徳川時代ニ於テハ米ノ貿易關係ナカリシカバ米價ノ變動ハ今日ヨリモ甚シク、コノ點ヨリ考フルモ之ヲ調節スルノ必要アリト説ケリ。尤當時ニアリテハ對外關係ハ殆ト鎖國ノ狀ヲ呈シ寛永十八年以後ハ僅カニ長崎ニ於テ清蘭二國ヲ限リ貿易ヲ許セシモ米穀ノ輸出輸入ハ之レナカリシモノノ如ク從テ國民ノ消費高ハ國內ニ於ケル生産高ヲ限リ不足ノ際ニ之ヲ外國ヨリ輸入シ若クハ過剩米ヲ外國ニ輸出スルノ途存セサリシ也。然レトモ外國貿易ノ盛ナル現時ニ於テモ外國米ノ輸入及ヒ内地米ノ輸出ハ共ニ之レアリト雖ソノ額未ダ大ナラサル也。ソノ輸入ノ盛ナラサル所以ハ蓋外米輸入關稅ノ存スル爲メナルヨリモ寧ロソノ主ナル原因ハ我國民カ日本米ニ對シテ特殊ノ嗜好ヲ有スルカ爲メニシテ朝鮮米ハソノ品質日本米ニ最も近シト雖他ノ所謂南京米ニ至リテハソノ品質劣等ニシテ到底之ヲ日本米ト同視スルコトヲ得ス、價カニ麥雜穀ニ比スヘキ地位ヲ占ムルニ過キサル也。又現今ニオケル日本米ノ輸出ハ主トシテ布哇、亞米利加等ノ本邦移民及

ヒ支那人ノ食料ニ供セラルルモノニシテ、諸外國人ハ日本米ニ對シテ吾人ノ有スルカ如キ特殊ノ嗜好ヲ有セサルニ加ヘテ、日本米ノ生産費ハ他ノ米產國ノソレヨリモ高價ナルカ故ニ之レト競争シテ海外ニソノ販路ヲ求ムルコトヲ得サル也。換言スレハ日本米ハ我國ノ特產物タルト同時ニ内地の商品ニシテ世界的商品ニ非ス。從テ近時ノ如キ米價暴落ノ時期ニ於テモ未タ大ニ外國ニ輸出スルコトヲ得ス。又數年前ノ如キ暴騰ノ時節ニ於テモ外國米カ酒々トシテ侵入シ内地米ニ代用セラルルコトヲモ得サル也。要スルニ日本米ハ小麥ノ如ク世界各地ニ亘リテ需要供給ノ變動ヲ相殺シテソノ價格ノ調節ヲ期シ得ヘキ性質ノモノニ非ス。故ニ單ニ外國貿易ノ有無ヨリ見レハ德川時代ノ如キ鎖國の關係ト現今ノ狀況トハ其間多少ノ相違アリト雖、米價調節ノ上ヨリ見レハコレカ爲メニ大ナル影響ヲ生スルモノトハ考フルコトヲ得サル也。從テ德川時代ニハ米ノ輸出輸入ナカリシカバ米價調節ノ必要ハ現今ヨリモ特ニ大ナリトイフハ未タ俄ニ首肯シ得サル所トス。

既ニ述ヘタルカ如ク米價變動ノ影響ノ及フ所頗ル大ニシテ之ヲ調節スルノ必要アリトセハ果シテ如何ナル方法ニヨリテ之ヲ遂行スヘキカ。思フニ米價ハ米穀ノ需要供給ノ關係ニヨリテ定マルカ故ニ米價ヲ調節セントセハ米穀ノ需給關係ヲ調和スル所ナカル可ラス。從テ江戸幕府カ穀物ノ需要ト供給トヲ相調和セシメントシテ行ヒシ諸般ノ政策、例ヘハ農民ノ奢侈ヲ禁シソノ地ニ土着シテ農事ニ勵ムヘキ事ヲ勸メ、或ハ開墾ヲ獎勵シ又或ハ煙草等ノ栽培ヲ制限シテ穀物ヲ作ラシメ又農民ノ米食ヲ制止シタルカ如キ、其他種々ノ方法ハ、長期間ニ亘リテ之ヲ考フルトキハ一種ノ米價調節策トシテ考フルコトヲ得ヘキモノ也。假リニ之ヲ廣義(若クハ恒久的)ノ調節策ト名ツク。然レトモ毎年ノ收穫豐凶ハソノ歲ノ天候ノ如何ニヨリテ決セラルル所多キカ故ニ、假令開墾獎勵ノ結果、耕地面積増加シ又耕作方法改良セラルルコトアリトスルモ、天候不良ニシテ凶作トナリタルトキハ直チニ需給關係ニ影響シテ米價ノ變動ヲ生スヘシ。サレハ恒久的調節ノ外ニ、臨機ニ

米價ヲ調節スルノ方法ヲ探ラサル可ラス。此ノ如ク年々ノ收穫ノ結果ニ基キテ調節スルコトヲ稱シテ假リニ狹義(若クハ臨機的)ノ調節策トス。世上ニ所謂米價調節ハ即チコノ狹義ノ調節策ヲ指スモノニシテ本論ニ於テ説ク所モ亦コノ意義ニ外ナラサル也。

然ラハ江戸幕府ノ行ヒタル狹義ノ米價調節方法ハ果シテ如何。今ソノ主ナルモノヲ概括スレハ左ノ如シ。



IV. 取引機關ニ對スル政策

(一)米穀投機取引ノ公許
(二)米商者ノ各種株仲間ノ設定

以上ノ諸方法ハ徳川三百年ノ間、時ニ應シ機ニ臨ミテ行ハレタル所ナルガ、今ソノ史實ヲ一一列擧スルコトハ煩ニ失スルヲ以テ以下單ニソノ一例トシテ享保年間ニ幕府カ江戸大阪等ニ於テ行ヒシ調節策ニ就テ述フル所アラントス。蓋享保年間ニ於テハ殖産興業ノ道大ニ開ケ米穀ノ生産亦増加シ米價ノ調節ニ就テモ御用金ヲ除クノ外以上諸種ノ方法ハ大抵行ハレタルヲ以テ享保年間ノ米價調節ヲ説クトキハ自ラ江戸幕府米價調節ノ概要ヲ知ルヲ得レハ也。然レトモ史料ノ蒐集未タ意ノ如クナラス、米價變動ノ程度、ソノ影響、調節ノ效果等ニツキ詳細明確ナル記述ヲ試ムルヲ得サルヲ遺憾トス。又紙面ノ都合ニヨリ調節策ニ對スル抽象的理論的批評ノ如キ殆ト皆之ヲ省略ニ附スルノ已ムヲ得サルニ至レリ、讀者ノ諒察ヲ乞フ所也。

本 論

徳川時代ノ初期ニアリテモ米價ハ常ニ一昂一低ノ狀ヲ呈シ而モ漸次騰貴ノ勢ヲ示シタリト雖、當時幕府ハ直接米價ニ對シテ之レカ調節ヲナシタルコト少ク、却テ貨幣相場ニ干渉ヲ加フルコト多カリキ(註)。而シテ米價ニ對スル干渉ハ明暦大火以後漸クアラハレ、元祿以降ヤ頻繁トナリ其後益激甚ヲ加フルニ至レリ。蓋昇平ノ世打續クニ從ヒ生活程度ノ向上スルコトハ避クヘカラサル所ニシテ、所得ノ増加之ニ伴フトキハ必スシモ大ナル苦痛ヲ感スルコトナカルヘシト雖然ラサル場合ニハ其間ニ大ナル生活難ヲ惹起セサルヲ得ス。武士階級ノ如キノ所得ハ生活程度ノ上進ト相應スルコトヲ得シヤ頗ル疑ナキ能ハス。加之幕府及ヒ諸藩ノ財政亦年ト共ニ窮乏ヲ告ケタリシ

カバ彼等カ唯一ノ收入源トシテ重要ナル關係ヲ有セシ米穀價格ノ高低ハ彼等ニ以前ヨリモ一層痛切ナル影響ヲ與ヘ米價ニ對スル感念ノ著シク銳敏トナリシコトハ調節策ノ頻繁ニ行ハルルニ至リシ原因ナル可シ。

〔註〕 今ソノ一例ヲ舉ケレハ慶長九年、十二年十二月、十四年七月、元和二年五月、四年二月、寛永二年八月、十三年六月、同年十一月、十四年等頗ル多シ(徳川十五代史參照)

第一章 享保十五、十六年ノ米價引上策

第一節 享保十五年以前ノ米價ノ高低

享保ノ初年ニアリテハ米價尙高直ナリシモ、七年秋ヨリ頓ニ賤シクナリ爾後七八年ノ間、愈低下シ、終ニハ貴カリシ時ノ五分ノ二ニ下落シ、士太夫ヲ始メ農民共ニ大ニ窮迫ヲ告クルニ至レリ(太宰春台)。蓋、墾田治水ノ勸奨ハ米穀ノ增收トナリ、比年ノ豐作コレニ加ハリ、其他諸般ノ事情錯綜シテコノ現象ヲ生セシモノナラン。カク米價ノ低落スルニ反シテ諸物價ハ之ニ應セス士農階級者ノ困窮愈大トナリ、享保九年二月ニハ米價下直ナルニ拘ラス諸色直段ノ高直ナルハ、ソノ意ヲ得サルヲ以テ之ヲ引下クヘキ旨ヲ命シ、他方ニアリテハ空米取引ヲ放任シテ米價ノ上騰センコトヲ思ヘリ。即チ同年同月京大阪町奉行ニ對シテ令スラク、

於其他、不實之米、商賣之儀、米下直ニ候、節細ニ不致吟味候而可然候、尤米直段格別高直ニ候時分ハ如最前之吟味可有之儀候間右之通取斗可申旨去年九月中相達候今以米直段下直ニ付諸人却而難義イタシ候由ニ而不實商之儀彌吟味強ク無之様相心得可申旨其地町奉行ニ可被申聞候(徳川禁令考徳川十五代史)

然レトモ米價下落、一般物價騰貴ハ當時ノ大勢ナリシカ如ク、十一年十二月更ニ

『近來米穀下直ニ付諸色直段引下ケ可申旨去ル辰年相觸候處吳服物類并酒紙炭薪等其外少々宛直段引下ケ候品モ有之候得共小賣等ニ至リ候テハ前々ニ差而替事モ無之候自今彌以間屋并小賣等迄直段引下ケ可申候云々(徳川十五代史)』

ト令セシカ一片ノ訓令豈ヨクソノ目的ヲ達センヤ。十四年四月ニ

『近年八木澤山ニ有之付而米屋共八木買置候而モ不苦候可存其意候依之當五月以後致買置候ニ付金銀借用之上、濟方滯候分奉行所エ願出ニオ弗テハ濟方可申候間、右借シ渡シ賣渡候先キ先キ滯候出入共ニ自今可訴出候(徳川禁令考、徳川十五代史)』

トイヘルカ如キハ米價下落ノタメ甚シク困惑セルコトヲ證スルモノトイフヘキ也。

享保九年十年ノ頃ニアリテハ米價低安ナリト雖尙廣島米一石四十三匁乃至五十匁(享保銀ニヨル以下同シ)ヲ稱ヘシカ、十三年ニハ三十七匁トナリ、十四年ニハ二十七匁ニ下リ米價暴落ノ狀ヲ呈スルニ至レリ。翌十五年正月以降幕府ハ種々ナル方法ヲ以テ米價ノ引上ヲ策スルニ至レリ。

第二節 享保十五年ノ引上策

(イ)買上米及ヒ諸侯園米令。十五年正月令シテ曰ク。

「御買米有之候間入札致候者來ル七日御藏役所へ入札持參可仕候、尤買上可申石數直段上中下三段ニ仕手本米モ三段ニ仕持參可仕候云々」

「御買米之儀町相場ニ准シ候様仕高直ニ仕間數候。」

「御買米納候ニ付船賃其外入用之儀ハ御買米直段之外ニ書付入札ト一所ニ可致持參候。」(徳川禁令考、徳川十五代史)

同年七月ニモ買上米令アリシノミナラス、八月

『近來ハ豐年打續候間、凶年之爲手當置米被仰付事候間諸大名モ米穀等可成程ハ貯置候様可被心得

候(德川十五代史吹塵錄)

トイヒ諸侯ニモ貯米ヲ勸メ以テ米價ノ下落ヲ防カントセリ。當時江戸商人ヨリ買上ケタル米量ハ一萬二千石ニシテコレカ爲メ米相場一石ニ付五六匁ノ騰貴ヲナシタリト云フ(三貨圖彙)然レトモソノ騰貴ハ極メテ一時のナリシモノノ如ク、同年十二月ノ米價廣島米一石二十九匁八分、備前米二十八匁六分ニシテ、之ヲ前年十二月ノ廣島米二十七匁、備前米二十八匁九匁ニ比スレハ甚シキ差異ナキノミナラス、數年前ノ米價ト比スルトキハ依然暴落ノ淵ニ沈メルモノナリキ。爰ニ於テカ米價引立ノタメ尙他ニ何等カノ策ヲ廻ラス所ナカル可ラス。江戸ニオケル下リ米問屋ノ獨占權ヲ確保シタルコトト、米穀投機取引ノ公許トハ此間ニ於ケル一策トシテ試マレタルモノナリキ。

(ロ)下リ米問屋株ノ確定。凡ソ特殊ノ商業ニ從事スル者ノ數ヲ限リテ之レニ獨占の權利ヲ賦與スルコトハ既ニ早ク足利時代ニモ行ハレ、德川時代ニ於テハ一般ニ廣ク行ハレタル所也。米商ノ株式ノ始メテ起リシハ享保四年江戸ニ於ケル下リ米問屋ニシテ高間傳兵衛等八人ノ者ニ限リ上方米ヲ取捌クコトヲ許シ脇々ノ米商ハ一切之ニ關與スルコトヲ得サリキ。然ルニ其後右ノ制限弛廢シ他ノ米商ノ之ヲ取扱フモノヲ生スルニ至リシカハ享保十五年九月令シテ高間傳兵衛等八人ノ獨占權ヲ確保セリ。而シテコノ米問屋株ノ設定ニツイテハ一面ニ於テ米價引上ノ目的ヲ有スルモノトス。即チ曰ク(德川禁令考)

(德川十五代史)

『上方筋ヨリ江戸若米之儀問屋之外脇々ニ而取捌猥ニ有之由ニ付去酉年吟味之上、下米問屋共外脇々ニ而取捌之儀停止申付候處頃日又々猥ニ相成候由相聞エ米直段ハ障ニモ成候間、米問屋高間傳兵衛……八人之者共計エ取捌申付候間右ノ外脇々ニ而ハ上方米引請候義一切無用可仕候、旅人米ハ勿論自分仕入等ニ而引取候米ニ而モ此節問屋共外脇々ニ而上方米堅取捌間敷候若相背候ハ

ハ急度可申付候條此旨不殘可觸知者也『享保十五年九月』

ト。尙元文元年十月、延享四年四月、天明元年、同七年五月ノ令等ヲ見ルモ（德川十五代史）下リ
米問屋株ノ設定カ米價引上ケノ爲メナルコト明カ也。

（ハ）米相場ノ公許。更ニ他ノ一策ハ米相場ノ公許也。卽チ堂島ニ於ケル帳合米取引、江戸ニ於ケ
ル米延賣切手賣相場會所ハ何レモ享保十五年幕府ノ公許ヲ受ケタルモノ也。同八月ノ令ニ曰ク
（德川禁令考。堂島舊記。大阪市史第三卷）

『近來米穀相場ノ儀ニ付品々願依有之商人共無覺束存相場ノ障ニ成候様ニ相聞ヘ候ニ付向後、右ノ
類願一切不取上管ニ候間、大阪米商之儀古來致來リ候通仕方ヲ以流相場商延賣買ヲ云フ諸國商人
并大阪申買共勝手次第ニ可仕候。而換屋ノ儀モ有來リ候五十軒餘ノ両換屋共取斗之相對次第數銀
其外相場差引勘定等ノ儀前々ノ通ニ致商隨分手廣ニ仕少ニテモ米商ノ障リ成儀無之様可致畢竟
米相場宜敷成候爲メノ事ニ候間其趣ヲ以心次第商可仕候』云々

是レ卽チ堂島市場ノ存立ヲ許シソノ帳合米取引ヲ認メタルモノナリ。而シテコノ米相場ノ公許カ
米價引立ノタメナルコトハ右ニイヘル『米相場宜敷成候爲メノ事ニ候間』云々トイヘルニヨリテ
モ明カナル所ナルガ、其後屢々發セラレタル觸書ヲ見ルモコノ趣意ハ動カス可ラサルモノ也今ソ
ノ一二ヲ例示センカ（取引所投機取引論）

『濱方ニ於テ帳合米賣崩シ候者有之由相聞ヘ候處帳合米ノ儀ハ正米引立ノ爲メ差許置候儀ナルヲ
其本ヲ忘レ正米帳合米ヲモ賣崩シ候段甚不埒之事ニ候云々（寶曆十年十二月）』

『帳合米賣買ノ儀正米懸藥諸家拂米相場引立候タメ格別御趣意ヲ以テ御免被仰付仲買株札ヲモ指
免置候處近來段々相場波レニ及ヒ自ラ正米ニ響キ賣買ナ危踏候哉ニ相聞ヘ云々（寛政三年四月）』

次ニ江戸ニ於ル米延賣切手賣相場會所ハ享保十五年七月ノ設立ニカカル。當時米價下落シテ土

民困窮シ百万米價引上ノ方策ヲ圖リシモ十分ニ效ヲ奏スル能ハサリシコトハ既ニ述ヘタル所ノ如シ。是ヨリ前江戸商人ノ大阪帳合米ノ仕法ニ倣ヒテ米會所ヲ起サンコトヲ圖リシモノアリシモ、僅ニ享保十年紀伊國屋源兵衛等カ米會所ヲ大阪ニ建ツルコトヲ許サレタルノミニシテ未タソノ企圖ヲ果スヲ得サリシガ米價引上ヲ要望スルノ聲高キトキニ乘シテ町奉行大岡越前守ニ請ヒ米價引上ノ方策トシテハ盛ニ買米ヲナシテ市内ノ供給ヲ減シ、更ニ之ヲ賣出スニ當リテハ正米ヲ引渡サス切手ヲ交付シテ必要ニ應シテ正米ト引換フルニ如カストシ、米會所ノ設立ヲ請ヒシガ、十五年七月遂ニ幕府ノ容ルル所トナリ、ソノ後之ヲ出願スルモノ多ク遂ニ十數ヶ所ニ達セリトイフ。カクノ如ク米會所ハ米價引上ノタメニ公許セラレタルモノナレトモ、内實ハ帳合米ノ賣買ノミ盛行シ、幕府ノ怪ム所トナリ偶大阪堂島米仲買總代ノ陳情アリ、終ニ帳合米ハ堂島市場ヲ限リ許スコトニ決シ、江戸各會所何レモ閉鎖ヲ命セラルルニ至レリ。當時ノ町奉行ノ伺書ニ曰ク、

「(前略) 右之者共去西十二月以來米延賣切手賣之儀相願買上米可仕旨追々願出候ニ付伺之上申付候處商ヒ始メ候得共隨ト取引不仕買上米モ幾斗相調候モノモ有之又ハ一向商ヒ取付不申勿論買米等モ買上不申者共モ御座候。畢竟米直段上リ候タメニ申付候處右之通不將ニテ米直段ノ爲メニモ不能成候尤最初申付候御買米モ不仕米高直ニモ不能成候ハハ何時ニテモ右商ヒ相止サセ候筈ニ銘々申渡置候不殘相止サセ可申候。依之申上候以上「取引所投機取引論」二五四頁以下) 以上ノ如ク種々ノ方策ヲ試ムル所アリシモ、米價ハ依然下直ヲ唱ヘソノ騰貴ヲ見ルニ至ラサリキ」(大日本貨幣史 參考物價部)

廣島米

備前米

中國米

十四年十二月

二十七八匁

二十八九匁

二十三四匁

十五年十二月 二十九分 二十八分 二十二分

第三節 享保十六年ノ引上策

翌十六年二月ニ至リ近年打續キ米下直ニ付三箇年ノ儉約ヲ令シ、四月以降更ニ米價引立策トシテ左ノ方法ヲ探レリ。

(イ) 買上米。幕府ハ四月ノ初メ江戸表ニ於テ約十八萬兩程ノ買上米ヲ實行シ且二十萬石以上ノ諸侯ニ命シテ江戸大阪ニ於テ買米ヲナサシメントセシモ偶四月十五日江戸大火アリタルタメ諸侯買米ノコトハ中止トナレリ(草間伊助筆記、吹塵錄、徳川十五代史、三貨圖彙)。

(ロ) 廻米制限。更ニ幕府ハ江戸及ヒ大阪ニ對スル諸國ノ廻送米ヲ制限シ以テソノ市場價格ヲ引立ント試ミ、先ツ兵庫ニオケル商人米ヲ大阪ニ廻送スルコトヲ禁シ尼崎城主ニ命シ商人ノ倉庫ニ封印ヲナサシメ(草間伊助筆記) 七月十二日ニハ

『江戸大阪ニ廻米之儀近年被相廻候高ヨリ多相廻候儀モ無用ニ候右相廻シ候米モ一度ニ多不相廻候様可被致候』云云(徳川禁令考、徳川十五代史)

ト令シ廻米高并ニソノ時期ニツキ制限ヲ加ヘ、八月ニハ江戸ニ白米ヲ廻送スルコトヲ禁セリ。即チ曰ク

『近年白米多ク江戸表ニ相廻候ニ付而米春共家業ニ相離并春米屋共モ商賣無之致難儀候其、上米直段之障ニ相成候依之向後白米一切江戸表ニ相廻シ申間數候若相背相廻シ候ハハ右之白米取上其上米主相糺シ急度可申付候右之趣奥州并關八州御料私領寺社領共ニ急度可相守者也』(徳川禁令考、憲教類典)

(ハ) 買米令。幕府ハ右ノ如ク江戸ニ於テ買上米ヲナシ、又廻米ニ制限ヲ加ヘタルノミナラス、

更ニ大阪ニ於テハ市中ノ富民ニ對シ、ソノ分限ニ應シテ買米ヲナスヘキコトヲ命シタリ。コレヨリ前五月十二日大阪城代土岐賴稔ニ移牒シ、

- (一) 市中ノ富商ヨリ制規ノ利子ヲ以テ買米資金ヲ仲買ニ貸與スヘシ。
- (二) ソノ返済ニ就テハ町奉行之ヲ保證シ、萬一延滞セハ買米及ヒ家買ヲ沒收シテ貸方ヘ償却スヘシ。
- (三) 尤買米資金ノ總額ヲ十五萬兩トス。

ノ三條件ヲ示シ、若シ此等條件ヲ以テ富商出金ニ應シ仲買買米ヲ諾スルニ於テハ其旨直ニ答申セヨトノコトナリシモ此方法ハ實現スルニ至ラス。乃チソノ方法ヲ改メテ直接富民ニ買米ヲ命スルコトトナリ(大阪市史卷一)六月二十四日西町奉行所ニ富裕ナル町人百三十餘名ヲ召シテ米ノ買入ヲ命セリ。ソノ令ニ曰ク、(大阪市史卷三)

- 一 買米申附候町人米ニテ成共切手ニテ成共勝手次第第二買取可申候事。
- 一 切手ニ而買取書付差出米後日藏出若滞候ハハ其屋敷藏元ヘ急度申渡無滞様ニ可申付事。
- 一 米ニ而買取候ハハ一石ニ付代銀何程ニシテ何程誰方ヨリ何米買取ノ段買主印形之書付可差出候尤米ヲモ見届サセ可申候事。

一 買米申附候町人共當分銀子有合不申時米切手ヲ以テ才覺仕候共其分勝手次第之事。

一 買米申附候町人之儀大名衆藏元并米代銀掛々屋等仕候歟又ハ金銀用達居候座敷ノ米者買取不申其外之屋敷之米ヲ買請可申事。(以下略ス)

米價ハ正月ノ二十九匁八分(廣島米以下同シ)ヨリヤヤ騰貴シテ買米令發布後ニハ三十五匁六分トナリ、

益以後一時四十七匁三分トナリシガ、市民ハコノ相場ヲ以テ人爲的ナリトシ官邊ノ干涉馳マバ又崩落スヘキヲ悟リテ掛々シク買米ヲナス、一旦購入セル分モ又々賣却スル者アリシカハ、相場

ハ又下落シ、米價引上ハ意ノ如クナラス。幕府ハ江戸ノ買米役人タリシ高間傳兵衛ヲ派シテ米ヲ買ハシメ、且前述ノ如ク江戸大阪ノ廻米額ニ制限ヲ加ヘ、又一方ニハ買米ヲナセシ町人ニハソノ預銀、賣掛銀等ニツイテ訴訟上一種ノ特典ヲ與ヘ以テ買米ヲ獎勵スル所アリシモ(註)、買米高極メテ少ク、更ニ新ニ買米人ヲ指定シ買米ヲ命シタレトモ豫期ノ如ク進捗セス。尤コノ間ニアリテ高間ノ帳合米ノ大買入ニヨリ正米五十七八匁、帳合米六十一二匁ニ上リシモ、買入石數多大ニシテ遺來兩替屋ハ之ヲ受取ラスト傳ヘシヨリ、急ニ五十二匁ニ下落シ、十月十日ノ相場ハ加賀米四十一匁五分、廣島米三十八匁六分ニ下落スルニ至レリ。(大阪市史 一ノ六七六頁)斯クテ個人ニ命シタル買米ハ失敗ニ了リタルヲ以テソノ方法ヲ改メ、十月十六日新ニ三郷町々ニ命シテ買米ヲナサシムルコトトセリ。曰ク

『近年米下直ニ付武家手詰候故町人共商賣モ無數武家ヘ用立候金銀返済モオノツカラ滞、世上一統之難儀ニ付江戸ニオイテ御買米度々被仰付候ヘ共米直段下直ニ付當地身ヲ持候町人共ヘ買米被仰付置候ヘ共猶又直段引上ケ候タメ此度三郷町數ヘ分ケ古米之分爲買取候標ニ被仰付候間町々ヘ買取飯米等濃シ米ニ可仕候公儀御用一通之儀ニ無之世間之爲ニ對而ノ事ニテ何分ニモ御奉公之儀ニ候間町々年寄共情ヲ出シ取斗可申候、米直段之儀ハ此上ニモ引上ケ候仕形段々有之儀ニ候間、油斷不仕買取可申候。』(大阪市史卷三)

乃チ先キニ買米ヲナセル個人ニ對シテハ既ニ購入セル米穀ハ隨意ニ之ヲ賣却シ更ニ今回ノ各町買米ニ基キ各町年寄ヨリ割當テタル米高ヲ買入ルヘキ旨ヲ傳ヘ、町年寄ヲシテソノ町内ノ家持借家人他町持他國持共ニ對シソノ身代ノ多寡ニ應シ或ハソノ居宅ノ間數商賣柄家内人數等ヲ標準トシテ身分相應ニ買米ヲ分擔セシムルコトトセリ。而シテソノ買入ハ古米切手ヲ以テシ追々減出ヲ行

ヒ、尙城米役料切米ヲモ買取ラシメ、買米ハ飯米其外ノ潰シ米トシ、一切商賣米トナス可ラストシ、又買米ノ質入ヲ許シ、若シ購入米カ自家食用ニ比シ多大ノ剩餘アルトキハ、之ヲ買米割賦ヲ受ケサル同町内ノ者ニ飯米トシテ賣渡スヘシト命シタリ(草間伊助 筆記卷一)。斯ク市中六百餘町ニ對シテ毎町數十石乃至數千石ヲ負擔セシメタルヲ以テ買米總額ハ實ニ六十萬石ニ上リタリト云フ(大阪市史卷一 六七八頁)。
(註) 此度買米被仰付候町人ヨリ預ケ銀又ハ賣掛ケ銀在之此度銀人用之所借リ主不將ニ付願出候ハハ縱先方ニ先訴在之候共、買米之人願出候ハハ先訴ニ可申付旨被仰渡候事。亥九月二十六日(大阪市史卷三三〇〇頁)

(二) 米仲買株ノ設定。享保十六年十月大阪町奉行ハ堂島米仲買等五人ヲ奉行所ニ召シ、米價引立ノ仕法ニツキテ問フ所アリ、米商人等仲買人數ヲ定メ諸御藏米御拂之節入札ヲ以テ買受クルコトトセハ米直段引立ツヘシトノ旨ヲ答ヘシニ、町奉行稻垣淡路守幕府ノ許可ヲ得テ大阪米仲買中ニ烙印付ノ株札四百五十一枚ヲ渡シ加島屋、升屋、津輕屋、俵屋、久寶寺屋ノ五人ヲ米年寄トシ、同十七年株札五百三十八枚、二十年ニ又三百六十二枚ヲ下付シ合計千三百五十一枚ト定メタリ(株數ニ付テハ諸書ニ異同アリ)。コノ方策ハ果シテ米價引立ノ爲メニ行ハレタルヤ否ヤ。享保十八年三月ノ觸達ニハ『米仲買者共締リ無之猥之義モ有之候ニ付先達テ吟味之上人數株ニ申付置候處』云々トイヒ、又一書ニハ『御買上米ノ儀米仲買共相勸シ功ニヨリ此節ヨリ株ニ被仰付』トイヘリ。コレ等ハ何レモ株仲間設立理由ノ一面ヲ語レルモノトイフヘク、換言スレハ一般株仲間ノ設立ト同シク同業者ノ取締監督トイフコトノ外ニ尙種々ノ目的アリシナルヘク、米價引立ノ爲メニストイヘルコトモ必ズシモ誤レルモノニ非ルヘシ(大阪市史卷一、六七九頁參照)。蓋、仲買人ノ限定ハ取引所設立ニ伴フ一現象トイ

アヘク取引所ノ設立ニシテ米價引上ノ爲メニスル以上ハ仲買人株仲間ノ設定モ同様ノ目的ヲ有スルモノト見ルヲ得ヘケレハ也。

幕府ハ米價引上ノ爲メニ右ノ如キ種々ノ策略ヲ廻ラシ、殊ニ買米高ハ六十萬石ニ上リシタメ、米價從テ上騰シ、十一月中旬廣島米四十七八匁以上五十二三匁ニ及ヒ、濱方越年米約百九十萬俵ノ巨額ヲ算シタルニモ拘ハラス年末尙四十二匁五分ノ相場ヲ維持セリ。(三貨圖彙。大阪市史二ノ六七八頁)

十六年一月

四月

六月買米令後

盆以後 高間大買入ノ際

十月十日

十一月

十二月

廣島米	元・八	三・五	三・六	四・三	五・〇	五・六	四・〇	四・五
備前米	六・四	?	?	?	?	?	五・〇	四・五
中國米	三・九	二・五	?	?	?	?	?	四・〇